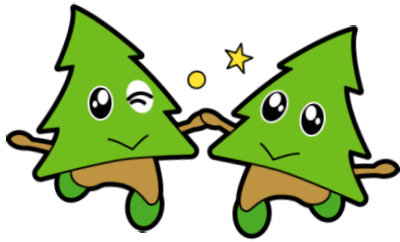


特定非営利活動法人
あきたスギッチファンド



TEL 018-839-8941
FAX 018-829-5803
e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp
<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

ファンドの寄付金受取状況
(平成28年4月～12月)

| | |
|------------------|-----------|
| 本ファンド 団体・企業寄付 | 3,135,132 |
| 個人寄付 | 106,604 |
| 合 計 | 3,241,736 |

新年にあたって

明けましておめでとうございます。今年も旧年同様よろしくご支援、ご協力をお願い申し上げます。

昨年末、突然びっくりするニュースが飛び込んできました。

秋田県は12月9日、県のマスコットキャラクター「スギッチ」が来年11月29日で「引退」と発表しました。となると、スギッチファンドはどうなるのでしょうか。う～ん頭が痛い。名称を変更する？ 名称はそのままにしてスギッチキャラクターは使わない？ ここは名前もキャラクターもコミュニティファンドに相応しく変えて、心機一転出直す？ などいろいろ考えられますが、皆さんはどうお考えになりますか。

新年早々大きな課題を抱えることとなりますが、慣れ親しんだスギッチファンドの名前の上に築かれた実績を、さらに伸ばしていけるように、じっくり検討して参りたいと思います。

多額のご寄付に感謝!!

秋田銀行行員有志の皆様からご寄付を頂きました

今年も株式会社秋田銀行の行員の方々にスギッチファンドへの寄付をよびかけたところ、有志の皆様から100万円余のご寄付が寄せられました。

秋田銀行は「あきぎんエイジフレンドリーバンク宣言」一長活きする秋田へーを標榜しており、日本一の高齢県だからこそ高齢者の方々が、生き活きと活躍し続ける地域づくりを応援しています。あきたスギッチファンドもこの意向に沿って、冠ファンド「活力ある高齢社会づくりファンド」として高齢先進県の課題解決に一石を投じるような新しい取り組み2事業と、分野指定ファンド「若者の活動を応援するファンド」2事業を企画しました。高齢者と若者とが協力しあって活力ある秋田を作りたいという思いからです。審査は12月3日遊学舎で、本ファンドと一緒に行われました。

秋田県職員の皆様からご寄付を頂きました

秋田県職員の皆様からは毎年あきたスギッチファンドにご寄付を頂いておりましたが、今年もお願いしたところ、有志の皆様から40万円が寄せられました。ありがとうございます。特に分野は定めず、本ファンドに入れて、来年度の助成事業に活用させていただきます。

あきたスギッチファンド活動ダイアリー

| | |
|---------------|------------------------|
| 8月21日 | 第2回少子化対策応援ファンド審査会 |
| 10月4日 | 第2回運営委員会 於：遊学舎 |
| 10月14日～11月14日 | 第16回助成事業募集開始 |
| 10月18日 | 第11回チャリティ・ゴルフコンペ in 樺台 |
| 12月3日 | 第16回助成事業 審査会 |
| 2017 | |
| 1月9日 | フットサル大会 |
| 1月16日 | あきたスギッチファンド通信 No.25 発 |
| 1月24日 | 運営委員会 (予定) |
| 2月21日 | 第7回チャリティ・グラウンドゴルフ大会 |

Topics

最近コミュニティファンドの分野で話題になっているのが、遺贈寄付と休眠預金。どちらも資金調達に関連した事項であるが、これからどう展開していくのか、これをどう取り込んでいくのか関心が高まっている。

遺贈寄付

個人が死亡した場合、その個人の財産は、通常は法定相続人が相続する。その個人が死亡した時に、遺言によって、財産の全部または一部を法定相続人または法定相続人以外の人に贈与するのが「遺贈」。そして遺言によって自己の財産の全部または一部をNPO法人、公益法人、学校法人などの民間非営利団体や、国、地方公共団体などに寄付する行為を遺言による寄付という。

ある団体の調査によると、40歳以上の男女の2割が遺贈寄付に関心があるが、現実に遺言を作成しているのは3.9%にとどまっているという。そこで多くの公益団体では、人生最後の社会貢献としてNPO等の団体への遺贈を考える人を増やしていきたいと考えている。

遺贈をすすめるためには、法律、税務、信託などの専門的な知識が必須であり、法律関係者、税務関係者と連携しながら活動を進める必要がある。

休眠預金

金融機関に預けられたまま10年以上お金の出し入れがなく、持ち主も名乗りを上げないいわゆる「休眠預金」は、毎年1000億円程度発生しているという。このうち預金者からの請求に基づき払い戻される分を除く500億円ほどを、NPO法人や自治会など公益活動を担う団体に助成したり融資したりして活用するための「休眠預金活用法」が12月2日成立した。1年半以内に施行される。今後有識者らによる議論によって事業計画や施行方法など具体的な制度設計がなされることになる。

既存の制度では支援できていない人々へのサポートに休眠預金が活用される一この画期的な法律に、福祉団体やNPO等から大きな期待が寄せられている。今後は休眠預金を社会の課題解決に役立てる仕組みをどのように構築するかが課題となる。

平成28年度 第2回少子化対策応援ファンド

今年度から県の補助金400万円を得て始まった少子化対策応援ファンドは、第1回の審査会を6月6日に実施し、8件260万円の助成を決定した。追加として第2回は6月2日～7月20日に募集し、8月21日に公開審査会を実施した。4件の応募があり、3件が採択された。

募集、応募、採択状況

| 助成額 | 募集件数 | 応募件数 | 採択件数 |
|-----------|------|------|------|
| 上限20万円コース | 2 | 1 | 0 |
| 上限30万円コース | 2 | 3 | 3 |



採択団体

30万円コース

団体名 こどもエコクラブ（秋田市）

事業名 SOTOで遊ぼう！ ―野外活動を通じた過去・現在・未来の子育て世代交流会―

子どもの体験活動に家族、多世代が参加して、普段は出来ない外遊びを取り入れたプログラムを実施する。ツリーライティング、馬とのふれあい、環境教育プログラムなどを行い、ネットワークを広げ、体験活動に幅や深さを持たせるようにする。子育てを終えた「過去」、子育て真っ最中の「現在」、これからお父さんお母さんになるだろう「未来」が語り合いながら様々な役割を果たす。

団体名 プレ☆ボックス（NPO法人日本バトントワリング協会秋田県支部）

（潟上市）

事業名 プレゼントボックス



保育所や幼稚園に通う未就学児から、小・中学生や高校生まで、広くバトントワリングを子どもの成長に役立てたいという思いから、次の事業を実施する。

県内の児童センターや子育てサークルに出向き、ダンスステップ、トワリングを披露したり、一緒に楽しめる講習会やワークショップを行う。その際技術を習得した高校生以上の学生には、公認指導員の補助をしてもらう。

バトントワリングを子育てのサポートとして役立てると共に、その技術向上が青少年の活躍の場を作ることになる。

団体名 あきた学童さくら教室（秋田市）

事業名 パパ・ママ・赤ちゃんみんな安心！育児環境向上プロジェクト

赤ちゃんが産まれてパパ・ママ一年生にとって、育児は不安だらけ。さらに共働きが当たり前の今日、小学生に上がる際の学童保育問題「小1の壁」も大きな育児不安となっている。そんな育児を取り巻く様々な環境改善を行い、地域の子どもたちの健全育成を推進する。そのために、次の事業を実施する。

- ① 講演会・講習会の開催（パパ・ママ・赤ちゃんパーク） 0～2歳児の子どもたちと父親・母親が集い、講座や育児情報交換を実施、育児コミュニティの形成に繋げる。
- ② 学童保育の実施。地域の要望を吸い上げながら、望まれる学童保育を目指す。



左：第2回少子化ファン
ド審査会

右：第16回本ファンド
審査会で選考委員
長の助成先発表



第16回本ファンド（2016年度第2回）助成先決定

第16回あきたスグッチファンド助成事業は、10月14日～11月14日に募集し、12月3日（土）公開審査会を実施した。今回は本ファンドに加えて、秋田銀行行員有志の皆様からのご寄付を原資に、冠ファンドと分野指定ファンドを組成した。プレゼンテーション、審査協議共に順調に進行し、結果発表も時間通りの発表となった。

選考委員長からは、・本当に実施できるか ・資金を有効に使い、次への展開、継続が見込まれるか ・他との連携のある活動か を重視して審査したと述べられた。その他委員からは、設立から2年以内の新しい団体が多く会計書類の不備や、実施内容が分かりづらいものが見られたという問題点と、意気込みが感じられた、秋田の元気につながる、これからも頑張ってくださいという応援メッセージが述べられた。

募集、応募、採択状況

| 助成額 | 募集件数 | 応募件数 | 採択件数 |
|---------------------------------|------|------|------|
| 本ファンド 上限10万円コース | 3 | 3 | 3 |
| 上限30万円コース | 3 | 4 | 3 |
| 上限50万円コース | 1 | 2 | 1 |
| 冠ファンド「活力ある高齢社会づくり」 上限30万円コース | 2 | 3 | 2 |
| 分野指定 若者の活動を支援 上限10万円コース | 2 | 2 | 2 |

本ファンド

10万円コース

団体名 あそび体験ボランティア「このゆびとーまれ」（北秋田市）
事業名 白い風と遊ぼう

当該団体は、子どものあそびの原点の振り返り、伝統あそびの再発掘、あそびを通して親子のふれあいの場を模索する、などを目的に活動している。

今回は、親子、友達、中・高生ボランティアなどが一緒に昔遊びや昔食を体験するイベントを、2月に北秋田市で開催する。昔遊び体験を通して高齢者と交流する、中高生ボランティアが幼児、子どもの面倒をみるなど、世代を越えて出会い繋がっていくことが期待される。



団体名 にこにこ食堂プロジェクト実行委員会（大館市）
事業名 にこにこ食堂の開設 「にこにこ食堂がやってくる！」

地域の子どもたちへ秋田の食材のおいしさを届けたい、孤食や正しい食生活に至っていない子どもたちへ手を差し伸べたいという思いから、地元企業、団体、ボランティア、大館市が協力をし、実行委員会を立ち上げ、「にこにこ食堂」を開設する。子どもたちの集まりやすい「たしろ児童館」を会場に月に2回（土曜日）「おいしさいっぱいお昼ご飯」の提供をメインに、随時マイ箸づくり、お料理にチャレンジなどを行う。

団体名 若年性認知症サロン「つぼみ」の会（秋田市）
事業名 若年認知症家族の介護からみる、支え合い事業（第1回）

当該団体は、若年認知症への理解を広め、本人と家族への支援を目的に、平成22年から活動している。

今回は、若年認知症の母の介護を通して社会に提言している岩佐マリ氏を講師に「若年性アルツハイマーの母と生きる」と題する講演と、県立リハビリテーション・精神医療センターによる「若年認知症コーディネーターの役割と地域の支え合い」の講演を行う。

若年性認知症の家族の介護の状況と想いを理解していただくと共に、若い世代の介護者を社会が支える活動に繋げていきたい。

30万円コース

団体名 三湖伝説連絡協議会（潟上市）
事業名 三湖伝説フォーラム in 田沢湖

秋田県の十和田湖、田沢湖、八郎潟の三つの湖を舞台に、龍神・八郎太郎を主人公とした「三湖伝説」を一つの地域資源と捉え、この伝説に関わる地域の連携を深め、観光、地域活性化に繋げることを目的に、次の事業を実施する。

三湖周辺の小中学生を対象に、三湖伝説にまつわる講和や周辺の散策、環境学習や地元食材を使った交流ランチ会などを行う。事業を通して、地域の活性化、「三湖伝説」と秋田の歴史の継承が望まれる。

団体名 YOSHITAKA CLUB（秋田市）
事業名 YOSHITAKA DANCE LIVE

UK JAZZ ダンサーYOSHITAKA は、12月6日秋田県児童会館でダンスライブを開催する。この2年間秋田で過ごして秋田の民俗芸能を学び、UK JAZZ ダンスと融合させた新しいパフォーマンスなどを披露する。ファンドの助成金はこの開催経費の一部に充てる。

その後ヨーロッパに帰るが、このパフォーマンスを通して秋田を世界に広めるべく活動するという。秋田を世界に発信するという期待の膨らむ企画であった。



団体名 秋田県教育カウンセラー協会
事業名 2017年教育カウンセリング・シンポジウム

児童生徒が抱える問題に対処するためには、学校は関係機関と連携してネットワークを構築することが求められる。今回その効果的な連携のあり方をテーマに、シンポジウムを開催する。教育・心理・医療・福祉関係者が一堂に会し、熟議することで、子どもの成長支援や連携のあり方などについて知識や技法が深まり、各現場での実践に役立てることが可能となる。

50万円コース

団体名 秋田たすけあいネットあゆむ
事業名 共にあゆむ支援プロジェクト

子どもの貧困問題が深刻化している。
当該団体では塾に通えない子どもたちに無償の学習室を開校し、高校受験に向けた学習支援を行っている。今回はさらにパソコンを備えて、実戦で役立つパソコン教室を開設する。働く上で必要となるパソコン技能を習得することで、就職で役立つことを目標としている。
貧困家庭の子どもたちが、一人でも多く目標と意欲を持って学び、将来に希望が持てるよう支援していきたい。

§ 冠ファンド「活力ある高齢社会づくりファンド ～秋田銀行行員有志による～」

秋田銀行行員の皆様からのご寄付を原資に、助成額30万円を2団体に助成するファンド。審査には、秋田銀行地域サポート部の児玉大平氏にも加わって頂いた。児玉氏からは多くの人が参加して地域を元気にする事業に助成することになった。資金を有効に使って成果を出して欲しいというコメントが述べられた。

30万円コース

団体名 ばそらいふ秋田
事業名 秋田 生き生きパソコンクラブ



中高年の方々がインターネットを安心して活用できる講習会を開催する。
インターネットを利用して買い物をする、メールを使ってコミュニケーションツールとして活用する、インターネットでニュース、天気、観光などの情報を得るなど、自宅に居ながらいろいろな情報を得、パソコン活用が生活の一部になるように指導する。パソコンを活用した中高年の方たちの豊かな生活を目指す。

団体名 ちっちゃいもの倶楽部
事業名 農村と都市をつなぐシニア交流事業

大仙市太田南部地区では、農業に携わるシニア世代が活発に農業、農産物加工などに取り組んでいるが、活動が地域内に止まっている。ここに地域の若者が関わって、太田の魅力を発信して地域に人を呼び込む活動、都市に出向いて農産物販売を行う活動を行う。
事業を通して地域に新しい交流が生まれ、地域全体が活気づくことを期待している。



§ 分野指定ファンド 「若者の活動を応援するファンド」

10万円コース

団体名 ToC秋田実行委員会
事業名 自分ごとから世の中を変えるための仕組み

変化を起こしていきたい秋田県内の若者、NPO、事業者などを対象に、アメリカなどでの社会事業の現場で使われている theory of change (ToC) の仕組みを用いた研修を実施する。自分たちの活動を続けていくことで何が生まれるのか、その先にどのような変化が生まれることを前提として事業を行っているのか、を学びながら、自分の目指しているビジネスプランをブラッシュアップしていく。

これまで秋田には見られない研修を開催することで、秋田県内からの新たな事業者を増やしたい。

団体名 秋田アートクラフト市実行委員会
事業名 秋田アートクラフト市

アートクラフトに携わる若い作家同士の刺激の場として、また障害者の社会参加支援の場として、アートクラフト市を開催する。

県内外の作家を募集するとともに、アートを志す作家、障害者にも展示・販売してもらい、お客様との交流を図る。

この市を通して、作家には制作意欲が高まり、また若い人やまだ参加したことのない方たちには出展意欲を持ってもらうことができる。次回に向けてアートクラフト市の展開が期待される。

～助成金でこんな活動をしました～

冠ファンド「活力ある高齢社会づくりファンド」

「高齢者の生きがいの場創出事業」

団体名：サークル「山鳩」（由利本荘市）
代表：会長 野口 元

サークル「山鳩」は、昭和54年成人式を迎えた旧鳥海町の同年齢の仲間と結成した団体。それ以来、鳥海地域でボランティア活動や地域づくり活動、青少年育成活動などを実施している。

今回は食品乾燥機を購入して、地域で収穫されたりんご、じゃがいも、にんじん、しいたけなどの規格外品を使ってチップスを作り、商品化して将来のビジネスに繋がりたいという目的をもって事業を実施した。

地域の高齢者がチップス作りに励み、りんごチップスは評価の高い商品が出来上がり、58袋（1袋200円）を販売することができた。

高齢者の生きがい対策にもなっており、今後も継続していきたい。

秋田銀行行員有志からの寄付を原資に、高齢化先進県秋田の課題解決につながる事業に30万円を助成した。

事業期間：平成27年12月14日～
28年8月31日



りんごチップスを製作、作業終了後の交流も楽しみ

分野別ファンド「若者の活動を応援するファンド」

「イマドキ女子のための日本酒入門」

団体名：こまち女酒会（湯沢市）

代表：代表 新山 綾乃

地域を元気にする若者の活動を対象として10万円を助成した。

事業期間：平成27年12月14日～
28年8月31日



日本酒に馴染みのない若い女性に、“湯沢の日本酒のおいしさを知ってもらおう”ことを目的に活動している。今回は、6月のさくらんぼ狩りと、8月の絵どうろうまつりに合わせて、湯沢市の酒造会社とコラボして酒造見学しながら日本酒を楽しむイベントを開催した。また女性向けの日本酒グッズー漆器グラスやバッグなどの制作も行った。

第15回助成事業 本ファンド 100,000円助成

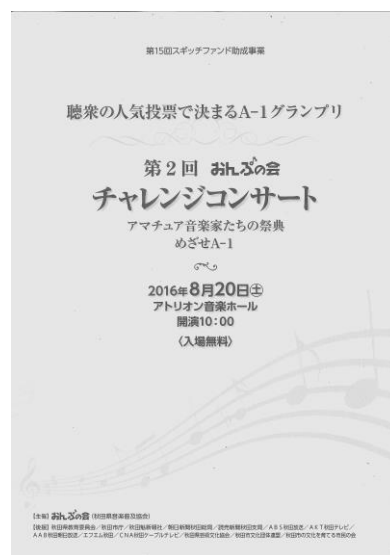
「アマチュア音楽家たちの祭典」 第2回チャレンジコンサート

団体名：NPO 法人秋田県音楽普及協会
(おんぷの会)

代表：理事長 佐野 春子

音楽愛好者や楽器演奏を楽しむ人たちに、音楽専用ホールで主体的に演奏してもらい、それを聴衆の人気投票で入賞者を決めるというコンサート。アトリオン音楽ホールで8月20日に開催。37組、51名が演奏参加、上位入賞者には、協賛企業から商品が贈られた。

演奏者と聴衆が一体となって楽しんだ、他にはないユニークなコンサートとなった。



あきたスギッチファンド寄付者一覧 (平成28年8月～平成28年12月)

※敬称略、順不動、お名前の公開許可を頂いた方のみ掲載します。

| | |
|--------|---|
| 団体・企業等 | 株式会社あくら、株式会社福岡ドライクリーニング、 みちのくコカ・コーラボトリング株式会社、有限会社ワタ商事、株式会社伊藤園秋田支店、 サントリービバレッジサービス(株)秋田支店、ダイードリンク株式会社、 秋田椿台カントリークラブ、(株)秋田銀行行員有志、日本らんちゅう協会北日本支部、 『心庭』、NPO 法人あきたパートナーシップ、NPO 法人県北 NPO 支援センター、 秋田県職員有志、スギッチ応援隊、イオン催事 |
| 個人 | 児玉大平、加賀谷智子、宮田寿美子 |